

若浜の子ども



令和6年7月18日 第3号

「根の力」を伸ばす 若浜小の教育活動 ～子どもたちの行動を支える「温かさ」と「自分から」～



◇よい土壌

(根が伸びやすい
良い環境づくり)

酒田市の学校教育では、子どもの学ぶ力の高まりを「一本の樹」にたとえて表し(まなびの樹)、活動づくりを工夫しています。若浜小も、二中学区としても、毎日の教育を同じ方向性で創っています。

③葉の力: 学んだことや探し出したことを生活に活かせる力(葉や実)

↑ となっていく。

②幹の力: いろいろな思考・試行をくり返し、解決しながら、たくましく

↑ (太い幹に) なっていく。

①根の力: 学ぼうとする気持ち、探し出そうとする意欲をふくらませる。

〔しっかりした根を張り、生きる土台となるよう、「根の力育成」と「よい土壌づくり」に力を入れています。〕

【根の力を高める 若浜小の取り組み】

- ふだんの学習では、自分の考えを持ち、みんなでつながり合い、自分たちで「こつ・ひみつ・原理・規則性」を探し出す学び方をしています。授業後半では、前半で得た事項を活用して発展問題などに取り組みます。「探し出す学び方」は、目的意識ややってみようという意欲、そして納得感が高まります。
- 学級活動、児童会活動などの協働解決活動も「自分ごと化」して進めることで、生活改善意識や生活創造意欲を高めるとともに自己肯定感も高まります。＜児童会がんばりテーマ、動画作成を通した自治活動、情報発信ニュース、あいさつポイント運動など＞
- 「よき手本を示そうと自分を奮い立たせる上級生」と「よい行動を真似していこうとする下級生」の素敵な行動にあふれています。最高学年の6年生だけでなく、他の学年の「後輩に教え伝える活動」も大切にしています。



「出会うすべての人を 幸せにする旅に！」

若浜小の「すてきな行動」を広めてきました!!

6年間で一度しかない修学旅行。5年ぶりに宮城県コースに戻り、宮城や仙台ならではの特徴的なコースの意味や価値を感じて行くことができました。

写真は、東日本大震災の遺構として残されている石巻市門脇小学校を見学した時の様子です。校舎全体が津波と火災により、被害を受けた様子を目の当たりにして、自然の怖さと身を守る行動力の大切さを感じることができました。



旅のスローガンは、「出会う全ての人を 幸せにする旅にしよう」でした。送り出してくれたご家族、いっしょに行く友だちや先生方への気づかい、出迎えてくれる施設や旅館の皆さん、途中ですれ違う一般のお客様たちへのあいさつ…対人意識を高め、相手への敬意をもち、全ての人に感謝やお礼の気持ちを伝え、「若浜小の温かさ」を多くの方々に広げ知らせながら、各見学地のよさを発見することができました。

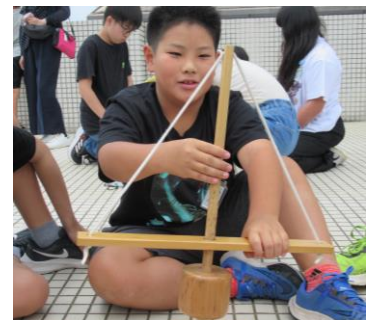
自分たち自身、「よりよく生きるプライド」がないと、相手を幸せにすることができないと気づくことができたのもすばらしかったです。



日本三景の松島の地形とともに、震災時の様子を語り部の方からお聞きます。



科学館と歴史博物館に分かれて、それぞれの体験を楽しみます。



遊覧船の中で、気持ちよい風に吹かれながら、旅の楽しさを味わいます。



温かなおもてなしを受けたことに対する感謝の気持ちを表します。